長与町議会議長 山口 憲一郎 様

産業厚生常任委員会 委員長 中村 美穂

委員会調查報告書

令和元年6月27日派遣承認された調査事件について、会議規則第77条の規定 により報告します。

産業厚生常任委員会所管事務調査

- 1 調査月日 令和元年 7月24日 ~ 26日 (3日間)
- 2 調査場所及び調査事件(所管事務調査事項)

東京都大田区

<口腔ケアと健康づくり>

- 生涯を通した口腔ケア取組の概要
- 実績と現状 {受診勧奨に対する受診率等(年代別、性別等)}
- 民間事業所や市民団体との連携などは行われているか
- 若い頃からのポピュレーションアプローチ等普及啓発の取組と工夫

<重症化予防のための取組>

- 多職種チーム結成に至る経緯(背景と契機)
- 事業スキーム及び施設側との調整方法
- 支援計画策定における具体例と効果並びに実績と評価
- 全ての介護保険施設で実施できているのか(施設、対象者の範囲等)
- ・費用負担の状況
- ・誤嚥性肺炎や窒息事故の減少、医療費削減など目に見える効果はあるか
- 対象者の拡大や専門職確保のための取組

・困難事例への対応と今後の課題

千葉県柏市

<介護予防事業としての取組>

- ・フレイル予防プロジェクト2025の概要と本事業の位置づけ
- 本事業の概要とスキーム(市民との連携手法)
- ・実施にいたる経緯(背景と契機)
- 対象者の範囲(その把握と管理の手法)
- ・費用負担の状況
- 具体例と効果並びに実績と評価
- 市民サポーター、地域サポーター養成のための取組と工夫
- ・参加対象者拡大のための取組と工夫
- ・ 誤嚥性肺炎や窒息事故の減少、医療費減少など目に見える効果はあるか
- ・困難事例への対応と今後の課題

<口腔ケアと健康づくり>

- ・ 生涯を通した口腔ケア取組の概要
- 実績と現状 {受診勧奨(年代別、性別等)}
- 民間事業所や市民団体との連携などは行われているか
- 若い頃からポピュレーションアプローチ等普及啓発の取組と工夫

東京都新宿区

<口腔ケアと健康づくり>

- ・ 生涯を通した口腔ケア取組の概要
- 実績と現状 {受診勧奨に対する受診率等(年代別、性別等)}
- 民間事業所や市民団体との連携などは行われているか
- 若い頃からのポピュレーションアプローチ等普及啓発の取組と工夫

<重症化予防のための取組>

- セーフティーネット事業の概要と事業スキーム(歯科医師会との連携)
- ・実施にいたる経緯(背景と契機)
- 在宅対象者の範囲(その把握と管理の具体的手法)
- ・費用負担の状況
- 在宅歯科診療提供の具体例と効果並びに実績と評価
- 誤嚥性肺炎や窒息事故の減少など目に見える効果はあるか
- 対象者の拡大や専門職確保のための取組
- 困難事例への対応と今後の課題

【委員長 中村 美穂】

東京都大田区

生涯を通した口腔ケアの取組みとして、母子手帳交付時に歯と歯周の状態を診るための妊婦歯科健康診査の実施について説明をしている。両親学級では歯科衛生士による生まれてくる赤ちゃんの歯と口腔の健康についての話と実習がある。その後の乳幼児期の健診から学童期のフッ化物塗布事業、成人歯科健康診査、障がい者歯科相談、寝たきり高齢者訪問歯科支援事業などの取組み、高齢者の摂食嚥下指導を特別養護者人ホームの入居者に対し、二つの歯科医師会の協力を得て行っている。口腔ケアの取組みは妊娠期ら高齢期まで切れ目なく行う事が重要であると改めて感じた

千葉県柏市

柏地域医療連携センター(合同視察)

東京のベッドタウンとして発展してきた柏市が豊四季台団地の建物の老朽化と建て替え、65歳の高齢化率が40%を超えたことをきっかけに、住み慣れた地域で末永く暮らしていけるシステム、「柏モデル」の確立を進めている。平成16年から建て替え事業がスタートし、平成21年6月に発足したのが「柏市豊四季台地域高齢社会総合研究会」である。これは柏市のほか東京大学高齢社会総合研究機構、都市再生機構(UR)の三者で立ち上げたものである。豊四季台団地は、建て替え後の団地に、特別養護者人ホーム、認定こども園、商業施設、病院、柏地域医療連携センター、地域包括支援センター、サービス付き高齢者向け住宅など地域でコンパクトにまとめられた地域であった。行政だけでなく学識、民間事業者の協力で成り立っている理想のまちづくりのケースだと思う。

• 柏市役所

「フレイル」とは、年をとって心身の活力(筋力、認知機能、社会とのつながりなど)が低下した状態。多くの人が健康な状態からこのフレイルの段階を経て要介護状態になることから、この「フレイル」という概念に着目した。そしてフレイル予防のためにフレイルチェックをして自分の状態をまず知り、そこから市民サポーターを養成して市民の手によるフレイル予防活動を展開している。また、柏フレイル予防プロジェクト2025推進委員会を立ち上げ、医師会、薬剤師会、東大、社協、民生委員児童委員、スポーツ推進委員、学識経験者、行政担当部などの多くの協力により協議を重ねている。フレイル予防啓発広報活動にも力をいれ、市民の認知度を高め、地域での支えあい体制を構築している。本町もフレイル予防に力を入れて、住民の健康寿命の延伸に取り組まなければならないと思う。

東京都新宿区

新宿区の歯科保健事業は、妊娠期の妊婦歯科健康診査から、1歳6か月児、3歳児歯科検診、フッ化物塗布を通して、ボランティアの歯科衛生士による歯科健康教育などを行い、学童期は定期健診、青年期からの歯周病健診、後期高齢者医療制度による歯科健診などがある。また、高齢者が地域で障害があっても安心して食事が摂れ、QOL(生活の質)の高い生活を送ることができることを目標として、摂食嚥下機能支援体制の構築をしている。新宿ごっくんプロジェクトとして、ごっくんチェック表を使って食事の時にむせるとチェックがついた場合、かかりつけ医やケアマネージャーなどから専門医に飲み込みの状態を診てもらい改善につなげる。このほか摂食嚥下観察評価表、摂食嚥下評価報告書などを使い摂食嚥下連携支援の体制を整えている。本町も高齢化が今後進んでいくため、摂食嚥下機能を低下させないように、いつまでも食べる楽しみをもって生活していけるような支援体制が必要である。

【副委員長 竹中 悟】

〇大田区

口腔ケアと健康づくり

理念 区民一人一人が生涯を通して健康で生きがいを持ち、安心して暮らせるまちを つくる。

特別養護者人ホーム18施設のうち12施設を対象に実態検証をしている。27年に6施設を民営化、2歯科医師会と医師会の協力を得ている。特別養護者人ホーム摂食嚥下指導事業実施要項を作成し、①事業の流れ②事業の効果③経費問題④今後の課題のアンケートを取り、有名大学と実態調査を実施し細やかな指導を行っている。

この地域には、有名大学が研究課題として大田区の事態を把握し、先進的で高度な研究が行われている。厚労省のモデル指定地域であり、この研究結果が日本のモデルになる。

○柏市医療連携センター

独立行政法人都市再生機構の指導の下、豊四季台団地の中に柏市、東京大学、UR都市機構の三社が協定し、地域高齢社会総合研究所を発足。総合的な福祉ゾーンの設置しているサービス付き高齢者向け住宅、グループホーム、小規模多機能定期巡回随時対応訪問介護事業所、訪問介護事業所、居宅介護支援事業所、訪問看護事業所を併設。24時間対応サービス提供拠点となっている。この団地面積は32,6haと広大で、地域包括ケアシステムのモデル拠点である。

〇柏市

フレイル予防施設

高齢化率25.63% 認定率15.5%。この地域も平成24年、東京大学によって

大規模長期縦断追跡調査の27年調査を元に、出前講座としてフレイルチェックを開始。 28年、フレイル予防対策として、介護予防センター、包括支援センターで出前講座、フレイル予防サポーター養成開始、ステップアップ研修、司会進行役養成開始を始めた。

29年、老人福祉センター主催でチェック開始。フレイル予防サポーター測定勉強会開始、予防ガイドブック作成、予防サポーター連絡会立ち上げ。東大柏キャンパスと行政が一体となり、合同で研究し成果を上げている。フレイルチェックにおいては大学側から提供された資料により実施されている。

○新宿区

食べる幸せをいつまでも

摂食嚥下機能支援体制の構築。

歯科医師会と共同し、在宅歯科相談窓口の開設、訪問歯科の紹介サービス、又年齢別のフレイル予防対策を徹底している。「新宿ごっくんプロジェクト」を作成。ツール①飲み込みチェックシート・ツール②摂食嚥下観察評価表・ツール③摂食嚥下評価報告書を配布し、簡易なチェックシートにより指導の徹底を促している。この地域も有名大学との連携で詳細なデータに基づき指導している。今回の研修は専門的な知識を持つ有名大学の存在が大変大きく、この判例が国中に反映されてくると感じた。

【委員 松林 敏】

〇大田区

大田区ならではの取組として、特別養護老人ホームへの歯科医による摂食嚥下指導事業の説明を受けました。

誤嚥性肺炎の対策としての指導を行うことで、誤嚥性肺炎の入院数を下げることに成功すると共に、入居者の食事の改善や職員の意識の向上などの効果もあったと伺った。 12施設、1,175人に対して年間の予算は1,700~1,800万円程度であるとの説明を受けました。

人口規模や、予算の規模を考えると、長与町に当てはめることは難しいと感じました。 成人歯科健康診査の対象が、30·35·40·45·50·55·60·66·68·70·72·74·76歳 と、回数が多くていいと感じましたが、受診率が6.3%で、とても低いのが印象的でし た。

新たなサービスを検討することも大切ですが、まずは既存のサービスの利用率を上げる取組も大事なのではないかと感じました。

○柏市

柏市はベッドタウンとして発展して来たいうことで、規模は大きく違いますが、年齢の構成などが長与町と類似していると考えられます。

地域包括ケアシステムを構築する中で、豊四季台団地という高齢化が進んだ地域をモ

デルとして、UR都市機構(公団)と、東京大学、柏市の3者が、地域高齢社会総合研究会の協定を結んだことが、柏市が最先端である理由です。知識、財政、人材等すべての要素が充実していました。

在宅医療の充実が、この地域包括ケアシステムの目玉ですが、その中でも特筆すべきは情報共有(多職種連携 I C T)です。ケアマネージャー,訪問看護師,歯科医師,リハビリ職,管理栄養士,介護ヘルパー,薬剤師,副主治医,主治医等、各職種がチームとなって、情報を共有し在宅医療に取り組むという、患者にとっては最高の環境が作られているように感じました。

規模は違いますが、徐々にでもこういった仕組みを取り入れていければいいなと感じました。

また、柏市のような高度なサービスでも、利用率はそれほど高くはなく、長与町でも、 既存サービスの利用率の向上については、継続して取り組まなくてはならないと感じま した。

○新宿区

新宿区では、誤嚥性肺炎での死亡率を下げるための「新宿ごっくんプロジェクト」の 説明を受けました。

まずは、チェックシートを利用した区民への啓発活動。そして、衰えた食べる力を鍛えるための「新宿ごっくん体操のうた」の作成。

都会ならではの地域のつながりの低さなどがあるのかと思ってましたが、デンタルサポーター研修など、ボランティアの方を交えてプロジェクトを推進していて感心しました。 最も印象に残ったのは、乳幼児へのフッ素塗布が、新宿区では3歳から6歳までは年 2回受けられるのですが、その利用率がとても高く、子育てに対する意識の高さに驚きました。

【委員 安部 都】

①東京都大田区役所(健康政策部保健所 健康づくり課)

大田区は、人口約73万人、約40万世帯の街で、高齢化率22%、23区内で一位の面積率を誇る街であった。今回、「口腔ケアと健康づくり」と「重症化予防のための取組」について視察を実施した。大田区は、22ヵ所の地域包括センターがあり、18ヵ所の特養がある充実した街であった。H27年に6ヵ所で口腔ケアの取組を開始し、3ヵ所が区立特養から民営化へ以降し、摂食嚥下指導事業を実施した。歯科医師会に業務委託し年間1700~1800万円の一般会計で実施。入居者の生活の質の改善、食事摂取増となり栄養状態も改善が見られた。その他、平成30年度の実績では、特養入居者の入院回数も減るなど実績も上げていた。妊娠期~青年期・壮年期・高齢期まで、生涯を通じた口腔ケアのきめ細やかな取組を行ない、啓発事業も実施、成人歯科の節目

健診実施、障がい者歯科相談など事業を展開していたのは素晴らし取組だと感じた。又、18歳以上の全区民に「おおた健康ポイント事業」を展開し、今年12月から稼働予定のアプリで、区民に健康づくりに関する有益な情報発信をすることなどは、本町でも参考となる事業研修であった。

②千葉県柏市役所

柏市では、「口腔ケアと健康づくり」と「介護予防事業の取組」について研修を受けた。柏市の人口約43万人、約19万世帯、高齢化率25.63%、認定率15.5%の街であった。今回、柏市における長寿社会の柏モデルの「住み慣れた地域で末永く暮らしていけるシステムの町づくり(65歳の高齢化率40%越の豊四季台団地再生をきっかけに、新たなまちづくりに着手についてお聞きしたが、これから全国的に高齢化に突入する自治体においての最先端「地域医療連携の街」の今後の姿ではないかと思った。「在宅医療」と「生きがい就労」など高齢者を孤立化させない「柏市セカンドライフネットワーク会議」も発足。「地域医療連携センターを建設し、医療・介護・行政・地域の連携する在宅医療の取組は素晴らしく目を見張るものがあった。

介護予防では、「フレイル予防」の施策について伺ったが、年をとって心身の活力が 低下しフレイルの段階を経て要介護状態になると言われているということ。フレイル状態をチェックにより、予防し「自分事化」し「気づき」の促進を期待することで、予防に繋がるということだった。H28年から「柏フレイル予防プロジェクト2025推進委員会」が発足し、普及・啓発と効果など協議を行い産官学と連携し展開していた。

フレイル予防の市民認知度は、H28年度で13.4%だったが、イオンとの連携などあらゆる公共場所に「フレイル予防」啓発の文字が見られ今後70%を目指し工夫を行っていた。今後、本町でも「フレイルチェック」が認可されたら是非、参考にしたいと思う取組であった。

③東京都新宿区役所

新宿区は、人口約35万人、22万世帯で、東京23区の中央に位置する区である。今回、「口腔ケアと健康づくり」と「重症化予防のための取組」で視察した。高齢者が地域で障がいがあっても安心して食事が摂れQOL(生活の質)の高い生活を送ることができることを目的として、摂食嚥下機能支援のネットワークを発足し、摂食嚥下機能支援体制の構築を図っていた。嚥下機能の低下に早めに気づき、適切な関係機関につなぐことができ、支援を提供する体制を作っていることは、先進的取組だった。摂食嚥下障害のポイントが分かる関係者が増えるという面では、当初8%が55%にと増加した。又、専門家に相談できる人の割合が増えるという面では、当初21%からH28年度には、81%に増加し、評価指標が目に見える効果がでていた。

特に、歯科保健事業での乳幼児期から高齢者による歯科健診、食べることをサポートする「新宿ごっくんプロジェクト」やデンタルサポーター研修や「新宿ごっくん体操のうた」など様々な取組を施行し、区民と共に親しみを持つ施策や医療との連携を充実さ

せていたことは素晴らしかった。40歳から口腔機能低下が始まるということをお聞き したので、食べることに気をつけながら「ごっくん体操」を参考にさせていただき自ら も気をつけていきたい。高齢者のみならず、若い方にも関心をもってもらうチャンスに なるのではないかと思う。大変ためになる視察となった。

【委員 岩永 政則】

○東京都大田区役所

口腔ケアと健康づくり

- ① 生涯を通した口腔ケア取り組みの概要
- ② 実績と現状
- ③ 民間事業や市民団体との連携

について、健康づくり課長から一括して説明を受けた。

具体的には、大田区の摂食嚥下指導事業についての経緯としては、高齢者が170,000人、高齢化率22%、の中で厚生労働省の調査地点の対象となった。

2つの歯科医師会があり、6箇所の特養で取り組んでいるとのことである。

事業の流れとしては、特別養護者人ホーム摂食嚥下指導事業実施要領を、平成27年2 月26日策定し進めていた。実施は二つの医師会に委託していた。

摂食指導を年2回、公演・研修を年1回行われている。

特に大田健康プラン・・・第3次を策定され、その中に{歯と口腔の健康}の項目を定めていた。

目玉事業として、おおた健康ポイント事業をおこなっていた。ここは長与町の歩くだけではなく食事・休養・喫煙・飲酒のリスク理解と行動・健康・歯と口腔の6項目を定めていたのは注目された。

○千葉県柏市柏地域医療連携センター

柏市における長寿社会のまちづくり〜地域包括ケアシステムの構築に向けて 研修方法としてはじめに、DVD視聴の後に説明を受けた。

この医療センターは、豊四季台団地という大型団地の中に設けられている。医療センターには柏市の保健福祉部 地域医療推進室と柏市医師会・歯科医師会、薬剤師会事務局から構成された複合施設で、あまり見受けられない施設である。

この施設は、各医師会との共同により団地の中心部に建設されている。2階建てで面積1,000㎡。1 階は柏市地域医療推進課、2階が各医師会である。あまり聞いたことのない施設である。

地域医療センターの機能としては、*患者が病院から在宅に戻る際の調整支援機能 *医師・多職種による在宅医療・看護・介護のコーディネート機能 *在宅医療に係る 主治医及び副主治医の研修機能 *市民相談・啓発機能を持っているそうだ。

相談機能・在宅医療の取り組み・在宅医療・介護連携の評価指標等については、別紙

資料によることとする。

〇 柏市

フレイル予防施策について

人口は421,057人、高齢化率25,63%、介護認定率15,5%。転入増加により人口が増加してきたが、将来は人口減少傾向にある。本町と同じ傾向である。

フレイルとは健康な状態と機能障害との間の移行状態をいう。

具体的には、年齢に伴って筋力や心身の活力が低下した状態(身体、精神心理、社会性の虚弱)のことだそうだ。いかに要介護にならないようにするかである。

フレイル・チエック(簡易チェック)を作成され、市民が簡単に自己のチエックができるようになっていた。

いかに予防に努めるかであり、そのための講座の開設・普及・啓発の事業が行われていた。

このチエックシートは本町でも是非作成し、普及啓発の必要を感じたところである。

〇 新宿区

在宅における口腔と摂食嚥下の機能支援について

高齢者が地域で、障害があっても安心して食事が摂れ、質の高い生活をおくることができることを目的化した、支援体制を構築されている。

取り組みの方向性としては、普及・啓発、医療機関情報一覧の作成、訪問歯科診療と口腔ケアの普及啓発等である。

特色として、《新宿ごっくん体操のうた》を作成し、体操の振り付けもされていた。 この歌に隠された7つの秘密として

- 1 旋律に合わせて丁寧に歌うと、のどを使う練習に
- 2 9文字の長いフレーズを歌って、痰を出す力の強化に
- 3 新宿名所・旧跡の中でも、口の動きによい歌詞が満載
- 4 《パタカラ》の発音で、食べ物を送り込む力の維持・向上
- 5 肩甲骨をリラックスさせて姿勢が改善
- 6 胸郭のストレッチで肺活量がアップ
- 7 座って行っても、呼吸筋が強化

があるとされていた。

おおいに参考なった。

以上主なものを記述し報告とする。

【委員 堤 理志】

厚生労働省政策統括官付政策評価官室アフターサービス推進室作成資料の「高齢者の 口腔と摂食嚥下の機能維持・向上のための取組に関する調査」に記載されていた先進自 治体のうち、関東地方3自治体(東京都大田区、千葉県柏市、東京都新宿区)の各所管課を訪問し研修を受けた。

〇東京都大田区

大田区における摂食嚥下指導事業についての実施は、もともと区立の特養で取り組んできたものを、民間まで対象を拡大したことであった。これらについてコーディネーター的な役割を果たしてきたとのことであった。具体的には昼食時に歯科医など5、6人のチームで摂食嚥下指導などを行ってきたとのことであった。

生涯を通じた口腔ケアの取り組みの概要及び平成30年度実績を表した資料によると、妊娠期から乳幼児期、学齢期、青壮年期、高齢期それぞれにおいて、取り組みを実施してきているとのことであった。青年期から高齢期においては年齢に応じたリーフレットを送付している。また、ホームページツイッター、きずなメール等で、歯と口腔の健康に関する情報を掲載するなど情報発信も積極的に行っていた。摂食嚥下指導事業の実施結果資料によると、平成29年度上半期と平成30年度上半期の比較資料では、誤嚥性肺炎の全体的な入院回数や人数は減少したとの結果であった。ただし、施設ごとの調査によると減少した施設もあれば逆に増加した施設もあり、ばらつきがあることも事実であった。

積極的な取り組みがなされていると感じたが大田区だけで人口が70万人を超える 自治体であるため、区民の状況を細かに把握することは非常に難しいと感じた。そうい う点では、本町のような小規模な自治体が住民の状況を把握するには有利と感じた。

〇千葉県柏市

平成22年当時高齢化率が40%を超えていた豊四季台団地をモデルとして、高齢社会の安心で豊かな暮らし方、街のあり方を、柏市、東京大学、UR都市機構の3者で議論し実践する試みが行われていた。

「顔の見える関係」をキャッチフレーズに、在宅医療・介護連携の体制が構築されていた。豊四季台団地の中心部にサービス付き高齢者向け住宅が建設されていた。この施設は近隣住民も医療福祉介護施設を利用できるとのことであった。

午後からは、フレイル予防政策についての説明を受けた。今後、高齢化率が上昇していく事を見込み、フレイル予防として介護予防政策を推進していく計画を立て、進めていた。フレイル予防サポーターを養成するために様々な努力、取り組みがなされていた。町会(自治会)に1つはサロンを作ると言う目標を立て実践をしていた。

「専門職による効果的なフレイル予防」、「市民主体のフレイル予防活動」、「フレイル予防活動を通じた地域づくり」を推進していた。これらは大いに参考になると感じた。

○東京都新宿区

新宿区では幼少期から高齢期に至るまで、様々な口腔ケア歯科保健事業について取り組みがなされている。

歯科保健事業の各事業の受診率を向上させるため、様々なイベントに合わせてデンタ

ルセミナーを行ったり、協働事業をNPOと3年間取り組むことや、各ツールを使って住民への啓発活動などに力を入れてた。

摂食嚥下障害を防止する取り組みとして「ごっくん体操」を実施し、またそのリーダーとなるごっくんリーダーを募っている。内容的にはボランティアや意思がある人、専門職等である。

非常に先進的で意欲的な取り組みがなされていた。そのために必要なスタッフの数、 豊富な啓発パンフレットなど潤沢な予算を持っていると感じた。

【委員 吉岡 清彦】

〇大田区

おおた健康プラン第三次(2019年度~2023年度)

基本目標の中に「歯と口腔の健康」を設けている。

(健診)として、妊婦期、乳幼児期、学齢期、青年期、壮年期、高齢期に対して、それ ぞれの内容で取り組んでいる。

(保健事業)として、それぞれの期に相談教室、予防教室を行っている。

また、摂食嚥下指導事業については、特別養護老人ホーム摂食嚥下指導事業実施要綱を設けて、取り組んでいる。食事力の改善、生活の質の向上があった。経費として年1700万~1800万。

〇千葉県柏市

1. 長寿社会のまちづくり~地域包括ケアシステムの構築に向けて~

高齢化率40%を超える地域が出てきた。(豊四季台団地) ここを「柏モデル」として、「在宅医療」を柱として、「かかりつけ医」の有り方を求めて、医師会などと連携をして、取り組んだ。平成24年からは市内全域に取り組みを広げた。

2.フレイル予防施策について

柏フレイル予防プロジェクト2025を設置

- (1) フレイルチェック講座
- (2) フレイル予防サポーターの育成
- (3)フレイル予防活動の普及・啓発
- の事業を各地域で取り組んでいる。

○東京都新宿区

1. 口腔ケアと健康づくり

乳幼児期から高齢期まで相談や検診、健診事業に取り組んでいる。

2重症化予防のための取り組み

「新宿ごっくんプロジェクト」を設置している。

体操、姿勢、食事の工夫、口腔ケアなどである。新宿区の特徴として「ごっくんチェッ

ク表」を用いて相談を受けている。